

軽度知的障害生徒の運動有能感に関する研究

順天堂大学大学院
スポーツ健康科学研究科
学籍番号：4119017
氏名：小沼 真仁

【目的】

本研究では、専門学科を設置する知的障害特別支援学校高等部の生徒を対象に運動有能感の実態及びその関連要因を調査し、生涯スポーツの実現に必要な課題について明らかにする。

【方法】

対象者はA特別支援学校生徒187名（1年生86名、2年生63名、3年生38名）であった。質問紙調査を行い、調査内容は①運動有能感について、②運動習慣、運動頻度、運動継続意欲、③運動・スポーツ、体育の好き嫌い、④中学校の所属および体育実施形態、⑤運動を楽しむと思う場面である。

【結果】

軽度の知的障害生徒は高い運動有能感を示した。中学校の所属学校・学級や体育の実施形態等の教育措置によって運動有能感に差は見られず、体育授業での経験や運動の好き嫌い、運動部活動への所属により運動有能感に差が生じることが明らかとなった。

【結論】

軽度知的障害生徒は高い運動有能感を示した。運動有能感形成の関連要因として、所属学校・学級や体育の実施形態では運動有能感得点に差は見られず、体育授業の中での経験や運動の好き嫌い、運動部活動への所属によって差が見られた。これらのことから、体育授業や運動部活動を通し運動に対して肯定的な認識をもつことができるよう、生徒の内面に働きかける取り組みを行う必要性が挙げられた。そして学校での学びを学校段階にとどめることなく学校卒業後の生活を意識し地域社会と連携して取り組むことが、軽度知的障害生徒の生涯学習・生涯スポーツの実現には必要になる。そのために、「する」「みる」「知る」「支える」等の様々な方法でスポーツに参画することが運動有能感を高めることや生涯スポーツを実現する上で必要になると考えられる。